

伝えたい風景、残したい地域の心

昭和52年に発足した『南陽8ミリクラブ』。これまでに、南陽市の情景を74本の映像に残してきました。

映像に映し出される、ふるさとの風景、そこで生きる人々。

今回は、地域愛にあふれたクラブのみなさん取材してきました。

昭和56年、熊野大社の稚児舞の取材



8ミリカメラとフィルム

8ミリフィルムは、今となっては珍しいもの。8ミリ幅のフィルムで、映写機を使って映像を映し出します。
 クラブ3代目の8ミリカメラ。初代のカメラは、結城豊太郎記念館に展示されています



映像を通して 地域貢献を

現在の会員は11人で、この日集まったのは会長の曾根原力さんをはじめ8人の方々。そのほとんどが発足当時からメンバーです。結成のきっかけは46年前、赤湯地区の社会教育・社会体育関係者、地区の住民などボランティアの手によって、烏帽子山公園から秋葉山を經由して二色根葉師寺に通じる約3キロのハイキングコースが整備されることに。貴重な機会だから、とその様子を8ミリフィルムにおさめました。その作品『ふるさとの散歩道』を東南置賜地区自作視聴覚教材コンクールにたまたま出品したところ、初めてにもかかわらず、なんと特選に。「映像はプロが撮るものと思っていたのに、初心者自分たちでも作り上げられるんだ！」と盛り上がり「うれしいうに当時は振り返る曾根原さん。」

その経験をきっかけに「映像を通して地域貢献できないか」と、思いを同じくする15人で立ち上げたのが『南陽8ミリクラブ』です。「始めた時はみんな素人。市教育委員会の8ミリカメラを借りて、詳しい方から指導を受けながら少しずつ

映画ができた瞬間 その感動が原動力に

「郷土を題材にした映像制作」「地域を元気にする」「南陽市を全国に発信する」。南陽8ミリクラブではこの3つのテーマを軸に活動を行っています。

映像制作は地域の偉人や自然、文化を題材にしたもの。監督は曾根原さん。全構成・シナリオ制作は加藤正人さん。撮影・編集は渡部さんと大場博さん、中村勇七さん。音響が後藤典昭さんで、照明は清水守さん。そして締めめの宴会担当が副会長でもある遠藤宏男さん。取材

の場には同席できなかった他のメンバーも、もちろんそれぞれに役割が。とは言うものの「出られる人がやればいい」としているから、その日集まったメンバーで必要な役割を分担して「ね」と大場さん。会員になる条件は？とたずねると「酒を飲まない人は会員にならないんだ(笑)」と答える遠藤さんの言葉から、なごやかなクラブの様子が伝わってくるようでした。

映像1本にかかる制作期間は1年。毎年開催される置賜地区や県自作視聴覚教材コンクールに向けてみんなで題材を出し合い、テーマが決定したら加藤さ

遠藤 宏男さん (副会長)

曾根原 力さん (会長)

「職種がちがう者同士が、郷土のために思いをひとつにして、にぎやかに活動する…いいもんだよ」



昭和54年。初代のカメラにて撮影。「ヘリコプターに乗って、上から稲荷森古墳を撮ったのは忘れられないね。がっちりシートベルトして窓開けて、よくやったな！」と曾根原さん。「今では考えられないな」と笑いあっていました

つ使い方を覚えていきました」と発足したばかりの頃の様子を教えてくださいました事務局長の渡部俊一さん。その後、クラブとして8ミリカメラを購入。「当時で10万円。それはそれは高級品でね」。貴重なもので、持っている人は、周りにあまりいなかったとのこと。VHS、デジタルカメラ、ハイビジョン映像——時代の流れに伴い、媒体を変えながら映像制作を続けているそうです。

んが県史・市史をはじめとした様々な資料を集めて調査。そのうえで、映像の全構成やシナリオを描いていきます。できあがったコンテをもとに、時間をかけて撮影を行い、映像を編集後ナレーションや音楽を入れて完成。

映像制作の楽しさを渡部さんにたずねると、「自分たちで映画を作れることだよ。1ショットだけでは意味のないものでもフィルムをつなぎ合わせることで、人に語りかける映画ができる。凝縮した時間の中で、訴えたいテーマを強力にアピールできるのが映像の魅力」と目を輝かせながら答えてくれました。1つ1つの過程をクリアして、1本の作品を仲間たちと作り上げる——「自分たちの手によって作り上げた瞬間の感動が、長く活動を続けてこられた原動力」と力強く答えるその表情から、活動の充実ぶりがかがえました。

地元の文化や風景を 後世に伝える活動

今はデジタルハイビジョンカメラを使っている撮影。8ミリカメラで撮影していた時は現像も必要で、かなりの手間が

清水 守さん

この日はレフ板を担当。「光を反射させるレフ板、今はこれだけど、昔はベニヤ板にアルミホイルを貼った手作りのだったんだよ！ホイルをぐしゃぐしゃにして貼るのがコツでね」



烏帽子山の大鳥居。実は昭和57年に行われた実測取材にも、8ミリクラブが参加していました



大場 博さん

「もともとスライド映像を作るのが好きで、個人で活動していたんです。猛烈アタックを受けてねー」と笑う大場さん。「入ってもらってよかった〜」とみなさん口々に



加藤 正人さん

「作ること自体が、郷土の勉強」と語る加藤さん。「ゼロから始めて調べ尽くして、人に語るくらいまでになる。その喜びが最高！」とにっこり



中村 勇七さん

「映像はきれいさが評価される時代。もう8ミリで撮ることはないけど、俺の心の8ミリはこれからも回り続けるよ」とちょっと照れながら語ってくれました



映像の中にはイラストも。「時代背景を追うにあたり、直接撮影できないものはイラストにして、アニメーションのように使います。見る人にわかりやすく、と思ひまして」と加藤さんが1枚1枚見せてくれました



「南陽に、世界の鼓童が毎年来てくれるなんてね。あの盛り上がりは忘れられない」。渡部さんが目をほそめて懐かしんでいました



今は一人でもできるという編集作業ですが、8ミリフィルムの頃は4～5人は必要だったそう。「音楽、ナレーション、現場音を同時に作業したり大変だね。夜中——いや朝方までやってたよ」と渡部さん。続けて遠藤さんが「作業しながら飲み会はじまって、にぎやかだったよ。奥さん大変だったべな!」と苦笑していました



8ミリ時代の編集



渡部 俊一さん(事務局長)

「8ミリフィルムの頃は、現像したものを1本1本見て、切って、部屋に張ったテープにつけて…。この順番だといつか、これが足りないとか。とにかく時間がなかったよ」



全国に南陽市を発信する活動では「日本映像祭 IN NANYO」「南陽映画塾」「全国アマチュアコンクール」ないし「話童謡祭」を開催。「日本映像祭 IN NANYO」をきっかけに交流の生まれた映画監督が、置賜地方をロケ地に映画製作を行った時は現地スタッフとして、ロケ場所の選定からエキストラの手配など、完成まで協力。多彩なイベントを通して南陽市を全国へ発信しています。

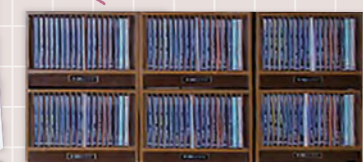
時代が変わり、機材も変わっても、クラブの名称が変わらないのは、始め

を元気にする活動として開催した「鼓童」公演のこと。南陽市では当時、商店会が主催する歌謡ショーなど、催しといえば入場無料の時代。そんな中で初めて入場料を徴収した催しが、クラブ主催の「鼓童」公演(昭和61年)でした。おおいに盛り上がり、遠藤さんが「5年間、南陽に呼ぶから」と声をかけ毎年開催へ。その後、後にもアジア国際芸術文化交流事業の一環であるインド民族舞踊団の公演など、市民を巻き込んだ地域活性化の事業を、南陽8ミリクラブが中心になり展開してきたそう。「地元の人がよくこんでくれる姿はやっぱりいいよね。活気を生み出したくてね」と曾根原さん。

山形県自作視聴覚教材コンクールでは、16作品が最優秀賞を受賞。全国コンクールでの受賞も12本を数えるクラブの活動は、地元文化を後世に伝える貴重なもの。そのため、記録性を重視した構成を意識していると言います。「私がいちばん思い入れのある作品は『ふるさ

た頃の熱意を忘れないために。発足から45年。それぞれ年齢は重ねたものの、バイタリティーと地域への熱い思いは、当時のまま。「だまされてこの会に入ったのよ!」と言いながらも楽しそうに笑う一人に続いて、「みんなそうだと口々に声を立てて笑いあう姿が印象的でした。お忙しい中、取材に協力いただき、ありがとうございました。」

との名石工吉田善之助。重機の無い時代に烏帽子山八幡宮の大鳥居はどういう方法で建てられたのか、映画制作の中で「先人の知恵」を知ることができ、我々も勉強になりました」と話す声に力がこもる曾根原さん。中村さんの記憶に残っているのは、「凍み豆腐づくり」。「冬の寒い中での撮影は大変だったけど、地域の知らないことを知るのでおもしろかったな」とこやかに笑いながら振り返ります。加藤さんも「今まで気づかなかったことに気づかされるのが多くてね。毎日が勉強。人間の技や知恵を、次の世代に伝えていかなければ」と活動の意義を感じています。



市立図書館へDVD寄贈の様子。そのDVDのジャケットも、木製の収納棚もすべて手作り!

お忙しい中、取材に協力いただき、ありがとうございました。

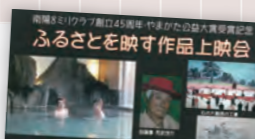
「和太鼓集団 佐渡の國『鼓童』のプロモーターになったことがいちばんの思い出ですね」。後藤さんが話すのは、地域

地域を元気に、南陽市を全国へ発信

後藤 典昭さん
南陽の電気屋に婿に入ったという後藤さん。「37～38年前に『これからはビデオの時代だから、メンバーに電気屋が必要だ!』と声をかけられてね」



今まで主催した事業の数々。地元と映像への熱を感じます



『凍み豆腐づくり』取材



全国ないし話童謡祭



『菊人形』取材

お知らせ&問い合わせ

南陽8ミリクラブ(事務局長 渡部)

☎090-4887-1084

上映会の詳細・クラブの活動などこちらまでどうぞ

南陽8ミリクラブ結成45周年記念

映画『おにぎり』上映会&須貝智郎コンサート

▶6月18日(土) ▶12:30開演/30分前開場
▶入場料1,000円 ▶シェルターなんようホール

